The Entomological Society of Japan

名誉会員　馬場金太郎博士 (1912–1993) を悼む

昭和 7 (1932) 年以来本会の会員であられた馬場金太郎博士は脳梗塞のため，この 1 月 6 日新潟県黒川村の御自宅で逝去された．享年 80 才．

馬場先生は旧姓酒井，千葉県安房郡富浦町のお生れ（明治 45 年 6 月 28 日）であるが，小学生の頃，新潟県北蒲原郡黒川村に移られ，医院であった馬場家を継ぐことになられたときく．その後の略歴を記すると次のようである．

1935 年　新潟高等学校卒業，新潟医科大学入学．
1939 年　医大卒業，医師免許状下付，新大解剖学教室助手，10 月応召．
1944 年　陸軍々医大尉（広東駐在）．
1946 年　帰国復員．
1947 年　医学博士（広東デルタのアノフェレスに関する研究）．
1948 年　開業，1954 年黒川病院設立．
1960 年　村上市に医療法人村上精神病院を設立．

幼時より虫ずきであった馬場先生は高校時代より活発な昆虫類の研究を開始された．高校の校友会雑誌“自然研究”に新潟市の海浜に豊富であった各種の昆虫，殊に“アリジゴク”を中心とした周到な研究を発表されたが，これは後年“アリジゴクの生物誌”(1953) として知られている．

しかしアリジゴクに限らず，爾後殆んど昆虫全般に亘って，越佐昆虫同好会の機関誌を主な発表機関として，活発な研究活動を開始された．馬場先生が強い関心を以て扱われた昆虫群としては，このウスバカゲロウ類を筆頭に，半翅類（全般），鞘翅類（全般），狩蜂類，トンボ類（殊にアカトンボ，ハッチョウトンボ），ハンミョウ類，マイマイカブリ類，佐渡島の昆虫全般，ガガンボ類，

NII-Electronic Library Service

The Entomological Society of Japan

ヒラタアブ類，コメツキムシ類，ゴミムシダマシ類，ハネカクシ類，原尾類などにひろく亘り，その成果はこれらのグループの専門研究者との密接な連携のもとに，越佐昆虫同好会誌や各種の学会誌のみならず，特別な「新潟県の昆虫シリーズ」等に印刷公刊された．1972 年の「飯豊山塊胎内渓谷の生物」は 335 頁，2 図版，又 1979 年の「新潟県の昆虫」(越佐昆虫同好会報，第 50 号慶祝論文集) は 1 図版及び 250 頁の大冊である．しかし声を大きくして提唱されていた「昆虫採集学」(666 頁) が遂に 1991 年に刊行されたことは，さぞ御満足であったことと思う．

馬場先生が日本昆虫学会に入会されたのは昭和 7 (1932) 年，中学生時代であった筈である．爾後評議員 (1965–1968, 1973–1976, 1979–1981)，第 23 会大会委員長 (新潟，1963)，創立 50 周年記念大会における学会賞受賞 (1967)，又名誉会員推薦を受けられ (1988)，御逝去まで実に 61 年の永きに亘って本学会を支援されたことが判る．

このように，馬場先生は日本の昆虫学の発展に絶大な関心を注がれたわけであるが，一方本業の医療を通じて，地域と県政に貢献されたことは，御自身でこそ吾々に告げられなかったが，各種の文化賞，功労賞，県知事賞を受けておられることでも知ることができる．このような功績の評価の一手段と理解されるのであるが，黒川病院に程遠からぬ県立胎内自然公園内には馬場先生を記念した立像のあることを付記しておきたいと思う．

(朝比奈正二郎)

NII-Electronic Library Service